



横浜市立つづきの丘小学校

学校だより つづきの空

11月

華いっぱい 夢いっぱい つづきのある学校

令和3年10月29日

教室と教室の間

副校長 八田 安史

「廊下の教室と教室の間。ここが一番ピカピカになる。」

昔、先輩に言われた言葉です。廊下掃除の際、自分の教室の前だけでなく、隣のクラスにかかるところまで掃除をする。お互いのクラスが、そこを掃除しあうと、教室と教室の間だけ2回掃除される。そのため、そこが一番ピカピカになるということでした。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、掃除については、まだ従前のように掃除ができていません。しかし、掃除に限らず心もちかたとしても考えるようにしています。「自分のことだけになってないかな。」私は、教室と教室の間の廊下を見ると思い出します。相手のために、少しでも何か自分にできることはないかと考え、「お互いが相手のことを思いあつた行動ができる」学校にしていきたいと思います。



教室と教室の間

先日、文部科学省から Society 5.0 のポスターが学校に届きました。学校司書の力を借りて、子どもたちが興味をもって見られるように、図書室の前に掲示しています。

内閣府のホームページでは、Society 5.0 とは、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」であり、「狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。」と紹介されています。

GIGA スクール構想により、各教室に Wi-Fi 環境が整備され、一人1台のタブレットが配られ、分散登校時にはオンライン授業、ロイロノートを使った学習や課題の提出など、今まさに Society 5.0 に向かっているとい



扉絵（イラスト）：Society 5.0（仮想空間と現実空間の高度な融合→人間中心の社会）（文部科学省）

いうことを実感します。タブレットはとても便利な道具です。しかし、使い方を間違えると大きな問題になることもあります。AI やロボットに支配され、監視されるような未来ではなく、一人一人の人間が中心となる社会とされる Society 5.0。人間が中心だからこそ、道具を使う人の心がとても大切だと考えます。自分さえよければいいという考えではなく、廊下の教室と教室の間がピカピカになるような心をもって、一人一人が正しく使い、より良い未来を創造していけるように、心を大切にしたい教育活動を進めてまいります。

